

市場万能社会を超えてー福祉ガバナンスの宣言ー

連合総研設立 20 周年記念シンポジウム記録集

パネリスト

宮本 太郎 (北海道大学大学院法学研究科教授) 広井 良典 (千葉大学法経学部教授)

濱口桂一郎 (政策研究大学院大学教授)

マルガリータ・エステベス・アベ

(ハーバード大学政治学部准教授)

高橋 伸彰 (立命館大学国際関係学部長)

講演者

神野 直彦 (東京大学大学院経済学研究科教授)

本書は、2007年11月27日に開催された連合総研設立20周年記念シンポジウム「市場万能社会を超えて～福祉ガバナンスの宣言～」の記録である。

連合総研は、シリーズ研究「現代福祉国家の再構築」のパートIVとして、2005年度に「現代福祉国家への新しい道ー日本における総合戦略」研究委員会(主査:岡澤憲英・早稲田大学教授)を発足させ、その研究成果を『福祉ガバナンス宣言』(岡澤憲英・連合総研編、2007年、日本経済評論社刊)として発表した。本シンポジウムの開催目的は、そのなかで提起されている市場万能主義や20世紀型福祉国家とも異なる日本の新しい選択肢について、福祉ガバナンスという視点から議論を深めることである。

パネルディスカッションおよび特別講演を通じて、日本が直面する問題が浮き彫りにされ、今後、労働組合が立ち向かわなければならない職場の課題や新たな福祉国家構築へのビジョンを共有することができた。

目次

パネルディスカッション「福祉ガバナンスの宣言」

Part 1 市場と福祉ー問題の所在はどこか?

討論をはじめるとあってー新しい政策の対立軸は何か

戦後日本の再分配政策とこれからの社会保障

構造改革と日本的雇用システム

福祉と政治ー日本の特徴は何か?

福祉と経済のこれまでとこれからー現状認識と「大きな課題」について

パネルディスカッション「福祉ガバナンスの宣言」

Part 2 21世紀型福祉社会のグランド・デザイン

経済の成熟化・定常化と福祉社会再構築の課題

労働政策と生活保障

日本の福祉を巡る新しい政治状況

資本主義のオールタナティブと福祉国家のオールタナティブーこれからの福祉ガバナンスのための具体的な課題

まとめーいま、日本の労働組合運動に期待するもの

特別講演「市場万能社会を超えて」